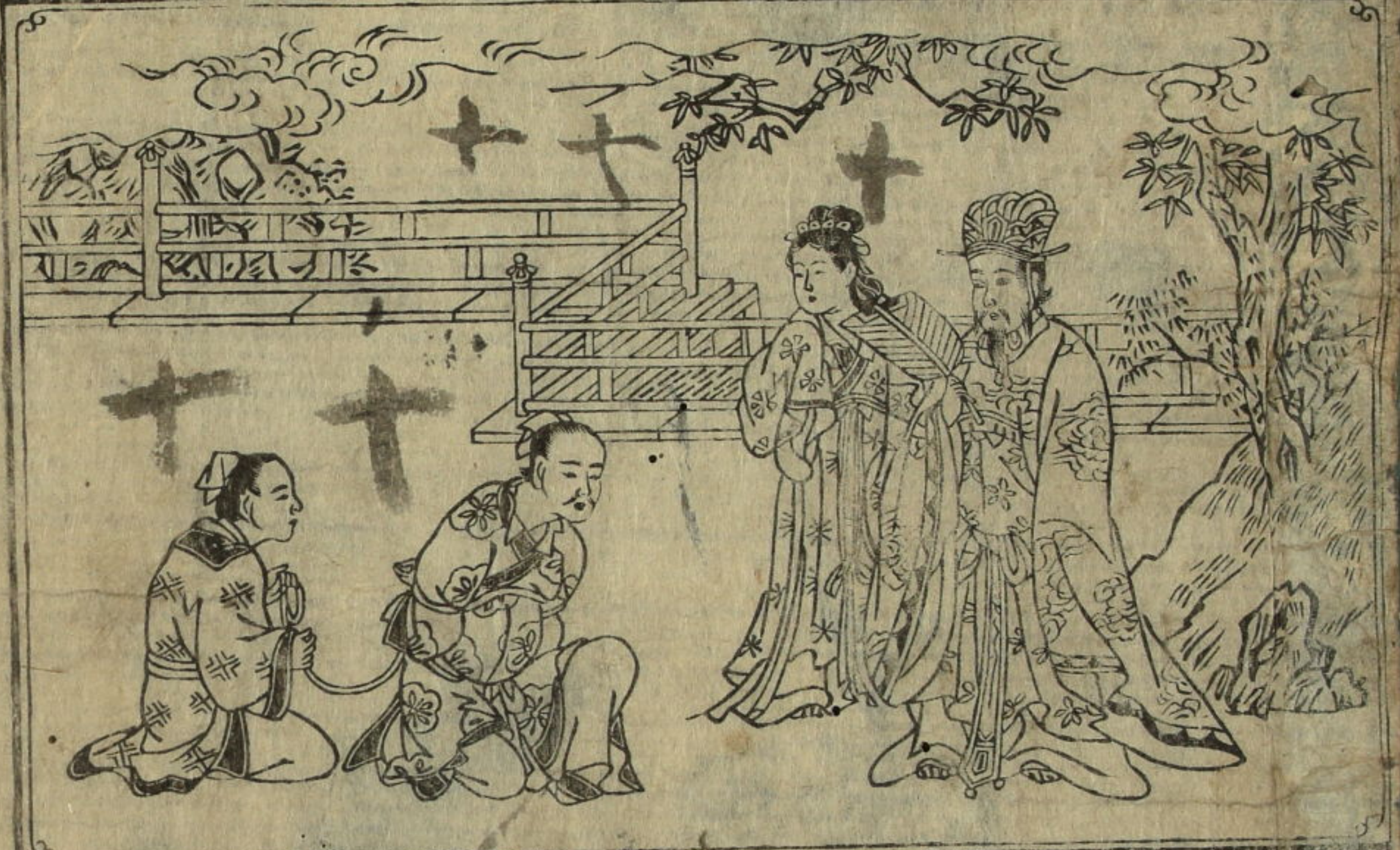


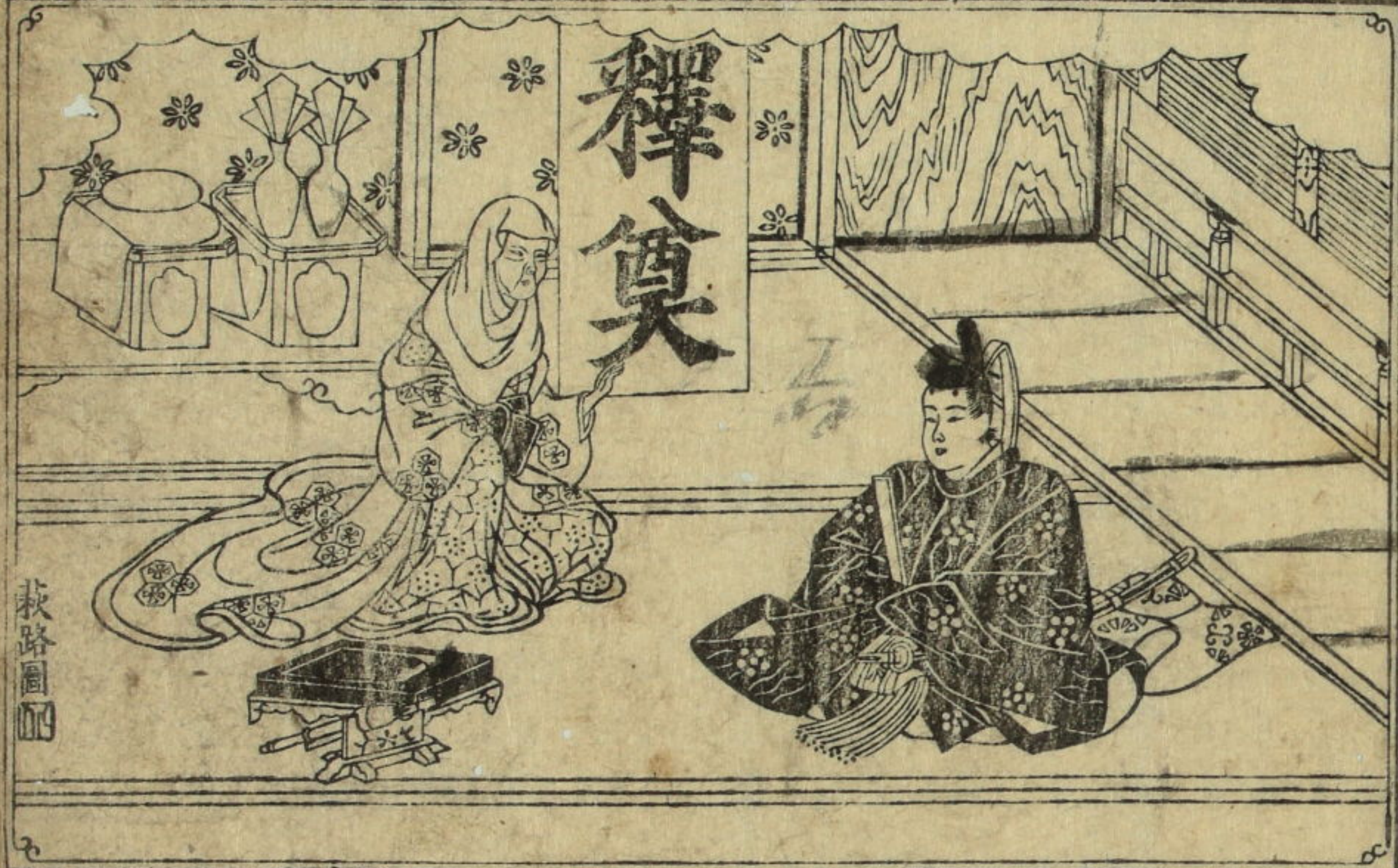


大廣益



南宮... 大聖孔子の... 子回南... 刑戮の... 兄孟皮の... 弟孟... 婚あり... 孔子の... 殺す人... 唯人賢...

故状猶



本朝... 儒者の... 物識... 元... 是善の... 真... 却母君... 久... 家乃... 殿... 於... 二月... かく... 聖の...

萩路圖



今川 俊忠 忠
 仲 秋 割 河 條 公
 一 不 知 文 道 也 武 乃
 一 終 不 以 務 利 事
 一 好 博 覽 道 志 樂
 一 益 救 生 事

蜀の... 孔明... 君... 婦... 子... 活... 見... ありて... でき...



向氏文集... 直下... 見... 直下... 安... 上...

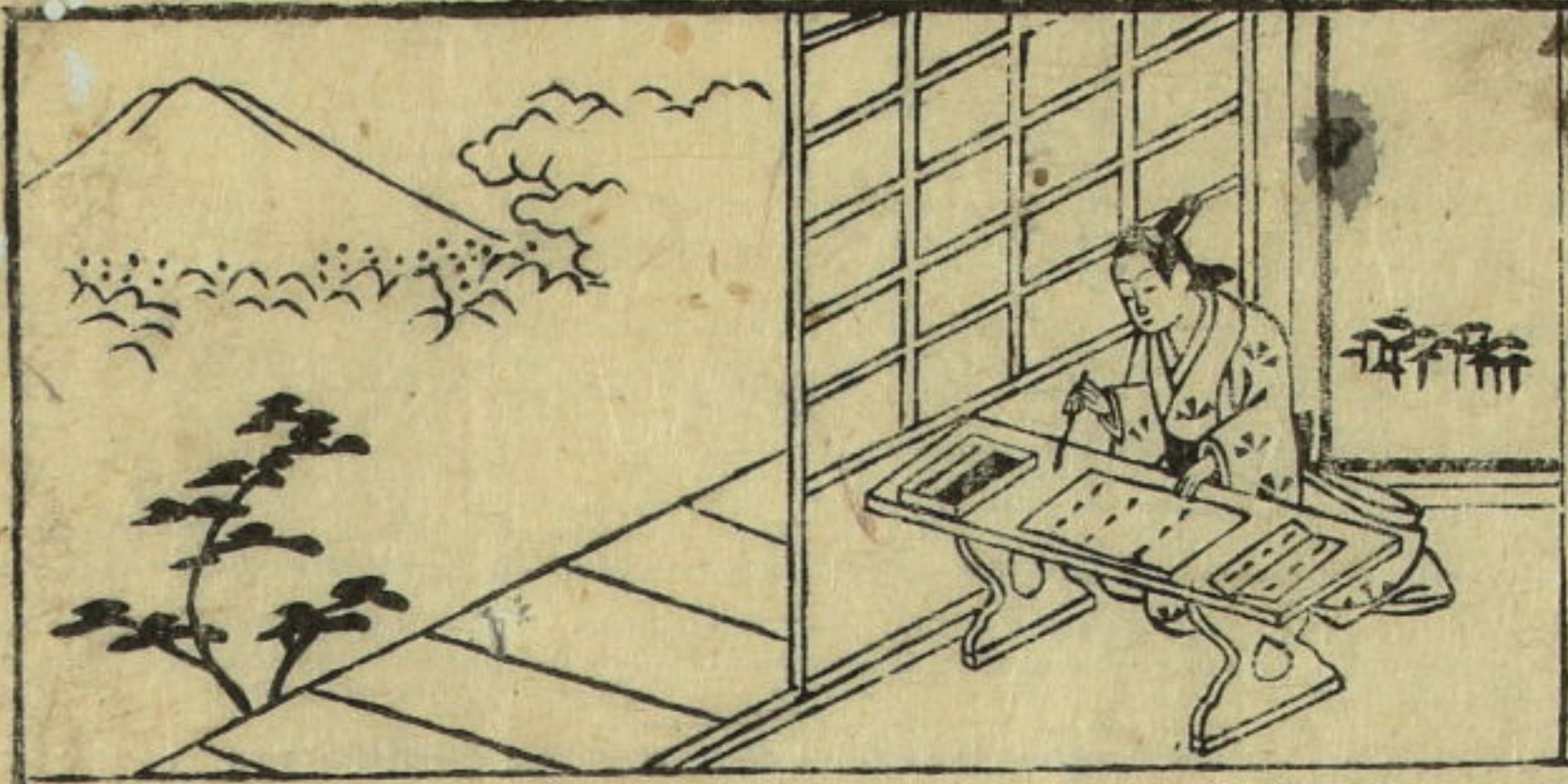
人... 出... 失... 三... 人... 七... 我... 衆... 者...





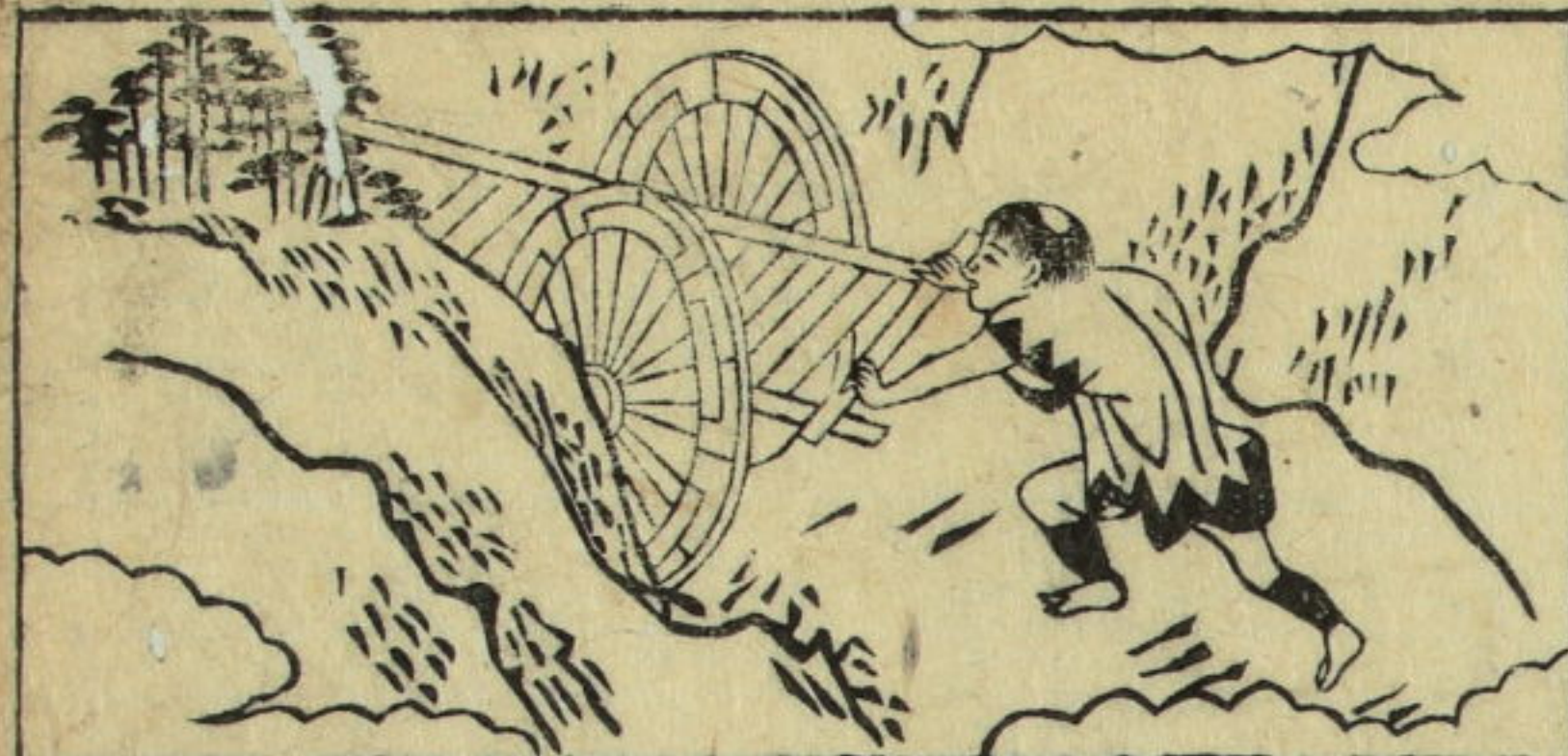
一 先祖の徳を
 一 忠孝の道に
 一 勤王の志を
 一 公事の心を

一 先祖の徳を山岳塔下
 一 彼儒者私宅事
 一 君父を重んず恩人志都
 一 忠孝根事
 一 公務を重んず私用
 一 忠天王道働事



一 勤王の志を
 一 忠孝の道に
 一 公事の心を
 一 先祖の徳を

一 小過軍を志す
 一 法令を犯す
 一 大科案を具す
 一 沙汰を致す
 一 貧民を憐れむ
 一 格業を重んず
 一 後例を採る
 一 宗廟を敬む



子...
...
...
...

一 夫 他人 理 致 豈
一 不 知 身 分 限 或
一 造 命 或 不 是 事
一 烟 賢 活 宅 倭 人
一 致 北 方 沙 汰 事



か...
...
...
...

一 不 弁 活 下 善 惡
一 不 正 賞 罰 事
一 我 知 活 下 働 若
一 又 下 為 目 亦 事
一 心 過 乱 取 悦 心 徒
一 人 熱 樂 身 事

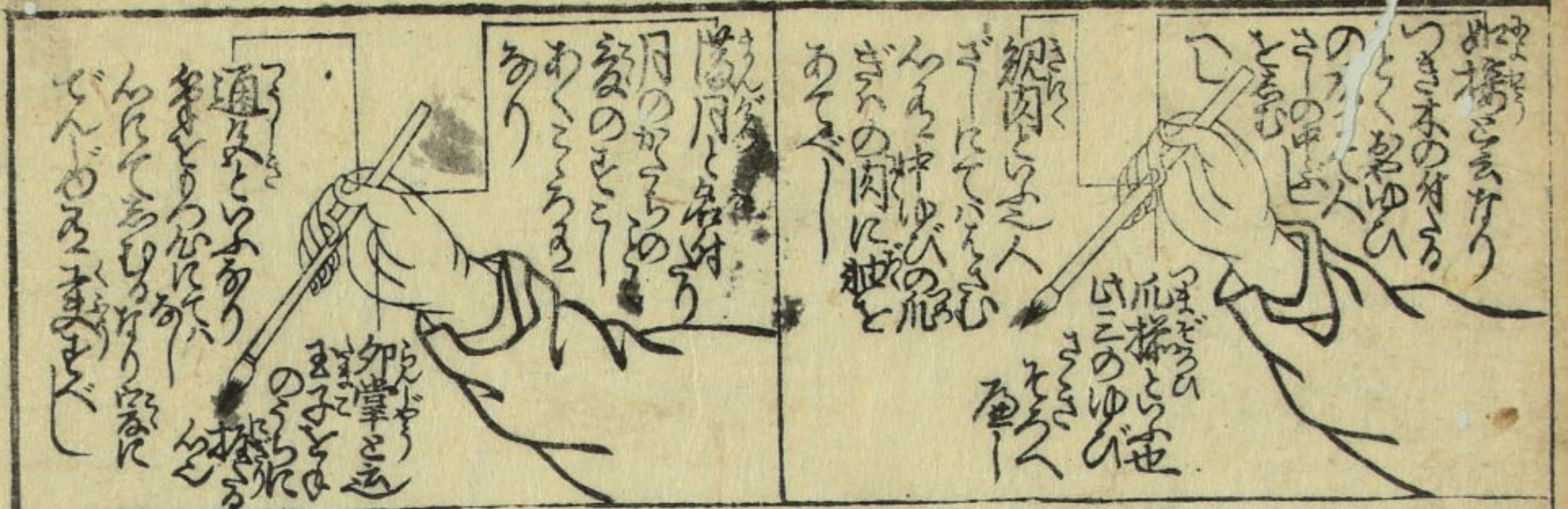


策道傳授

一人來則捧虛病
 不能對面奉
 好獨味不能施
 人合隈居奉
 衣具衣裝已違分
 為活不見若奉



一迷已利根然可
 有忘家賊奉
 一長酒宴花真獨
 踏面毒不可煙子
 乃白ふく其旨正



一出家門に在りて
 崇可正礼義子
 一貴族ふ舟因果
 一道理は安楽事
 一於分國立諸國々
 一性迷旅人事

永
 勸業 勸業 勸業
 勸業 勸業 勸業

右に永く常々私掛分
 る合我嗜事或古乃
 不殊同當主執の後事
 也先て守國事せし學問の
 不城政道之旨也書經を
 外軍出亦我我知也知也

諸禮之要抄



主人父母のついでに袖をま
まらたれ神もついでに
袖をまらたれ神もついでに
とれくまのついでに



途平 礼乃 仕揃
結ばぬて主人のついでに
礼もついでに甲はの
ゆひとついでについでに
とれくまのついでに



常々茶の
らうそつてあんか
河乃ついでに
とれくまのついでに



茶は茶の
下は下
おまて
下かひの金

時お付乃心奉儀初要友不
可随順水活方者是依
善思友云奉実式光法
等護之也賢仁人實良也
且若存後今中結之先缺若
分是共也家何知謂事者

若者誠不知也知好傍已友
不好方我朋者人實之但約
云逆法勿撰捨人光思云云
先思也信事也石限者一也
一初身之危人奉教法
都成能才一生武士也

神裁



此の神裁は、人の心を通じ、神の意を察する事也。凡そ人の行ふ事、神に告げ奉る事、神は之を察し、之を裁く。此の神裁、人の心を通じ、神の意を察する事也。

神裁



此の神裁は、人の心を通じ、神の意を察する事也。凡そ人の行ふ事、神に告げ奉る事、神は之を察し、之を裁く。此の神裁、人の心を通じ、神の意を察する事也。

神裁



此の神裁は、人の心を通じ、神の意を察する事也。凡そ人の行ふ事、神に告げ奉る事、神は之を察し、之を裁く。此の神裁、人の心を通じ、神の意を察する事也。

神裁



此の神裁は、人の心を通じ、神の意を察する事也。凡そ人の行ふ事、神に告げ奉る事、神は之を察し、之を裁く。此の神裁、人の心を通じ、神の意を察する事也。

人我を掛く事、以て嫌念を
お多し戒重也。先づ知家者
愚者貴姓群集来則魚
善随指法人誅。出入を崇時
已公行て和正。及後、市
二程、有之。此理非道。云一

人我を掛く事、以て嫌念を
お多し戒重也。先づ知家者
愚者貴姓群集来則魚
善随指法人誅。出入を崇時
已公行て和正。及後、市
二程、有之。此理非道。云一

人我を掛く事、以て嫌念を
お多し戒重也。先づ知家者
愚者貴姓群集来則魚
善随指法人誅。出入を崇時
已公行て和正。及後、市
二程、有之。此理非道。云一

人我を掛く事、以て嫌念を
お多し戒重也。先づ知家者
愚者貴姓群集来則魚
善随指法人誅。出入を崇時
已公行て和正。及後、市
二程、有之。此理非道。云一

人我を掛く事、以て嫌念を
お多し戒重也。先づ知家者
愚者貴姓群集来則魚
善随指法人誅。出入を崇時
已公行て和正。及後、市
二程、有之。此理非道。云一

人我を掛く事、以て嫌念を
お多し戒重也。先づ知家者
愚者貴姓群集来則魚
善随指法人誅。出入を崇時
已公行て和正。及後、市
二程、有之。此理非道。云一

且又、下世乃白人、貧民、深
略、業、物、中、因、之、歎、悲、族、為、中
披、慈、眉、有、立、寄、持、門、の、心
能、之、分、別、由、此、法、下、獲

且又、下世乃白人、貧民、深
略、業、物、中、因、之、歎、悲、族、為、中
披、慈、眉、有、立、寄、持、門、の、心
能、之、分、別、由、此、法、下、獲

且又、下世乃白人、貧民、深
略、業、物、中、因、之、歎、悲、族、為、中
披、慈、眉、有、立、寄、持、門、の、心
能、之、分、別、由、此、法、下、獲

且又、下世乃白人、貧民、深
略、業、物、中、因、之、歎、悲、族、為、中
披、慈、眉、有、立、寄、持、門、の、心
能、之、分、別、由、此、法、下、獲

且又、下世乃白人、貧民、深
略、業、物、中、因、之、歎、悲、族、為、中
披、慈、眉、有、立、寄、持、門、の、心
能、之、分、別、由、此、法、下、獲

且又、下世乃白人、貧民、深
略、業、物、中、因、之、歎、悲、族、為、中
披、慈、眉、有、立、寄、持、門、の、心
能、之、分、別、由、此、法、下、獲

コト



書乃
此の書は...
又ひて...



書乃
此の書は...
又ひて...



通のけ
此の書は...
又ひて...



通のけ
此の書は...
又ひて...

不可道之利也忠不忠
能方其有書對の必要
也之益之効構私用与為
之道世用不持持教
軍免の取取世取の法取
人自先規知の分改世相

遠其何之依主人持振威
勢多少也既生之知合教
乃家法而取不持兵士不
恥天子之朝儀備下口惜
次身也仍存其書如件
永享元年九月十日

引の業



引の業は引の業なり
引の業は引の業なり
引の業は引の業なり

切の業



切の業は切の業なり
切の業は切の業なり
切の業は切の業なり

入出乃子障



入出乃子障
入出乃子障
入出乃子障

之を名来代に画目文を
打拍の也後之文章一に勵津力
貴親令相茶淡ふ乾の酒花

亦如彼字不用軍と其身
此也此摩師匠父母腐也
子園老牙及悔子方也知
雅の時高神余ふ親信未
練才而進下由不字一字文



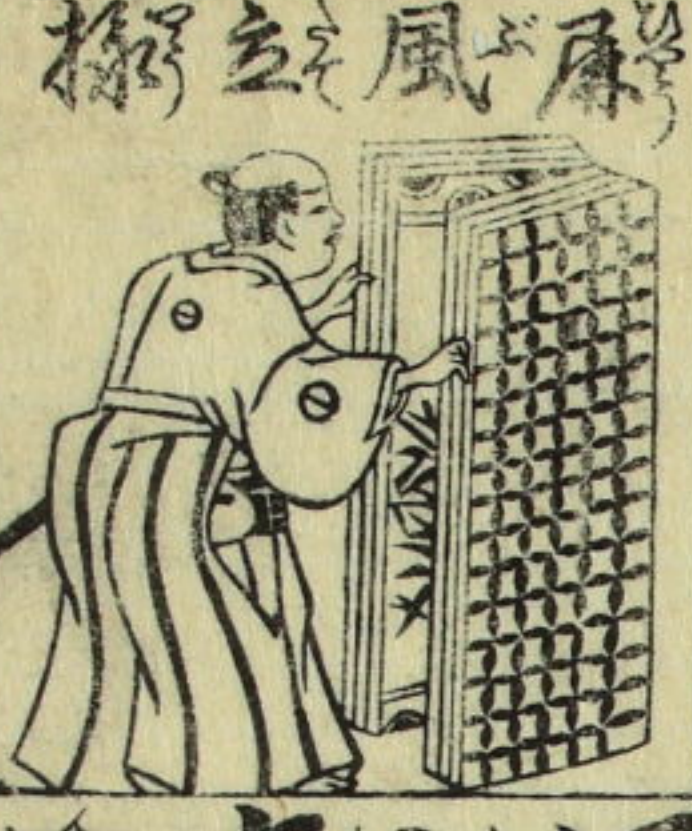
あはれみの言へ事する物法
そなたの事人のたむ事
まはれひの事うたむか
おの目にあはれ物の世



あはれみの言へ事する物法
そなたの事人のたむ事
まはれひの事うたむか
おの目にあはれ物の世



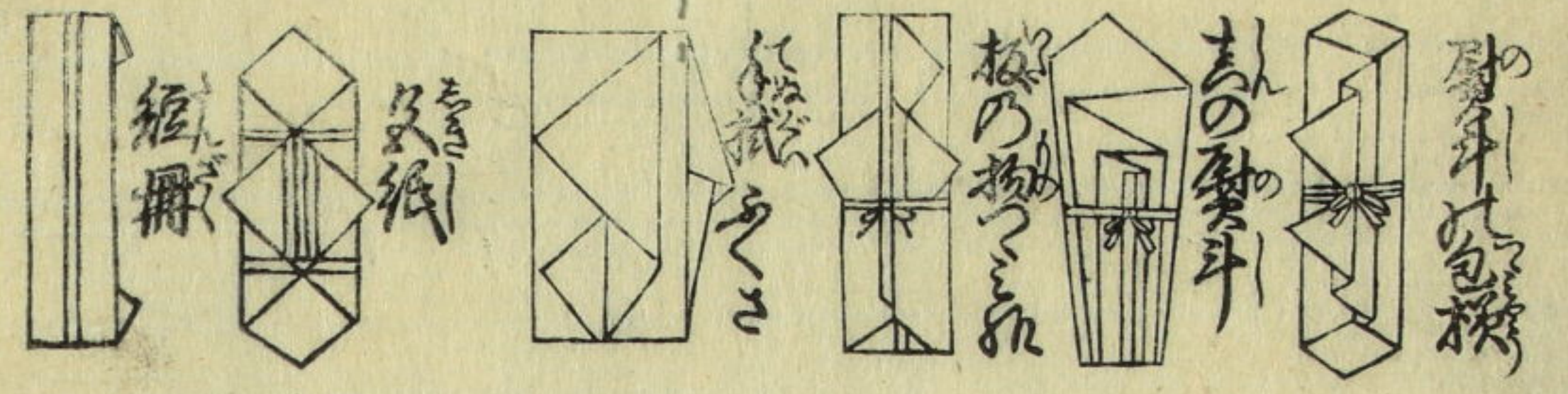
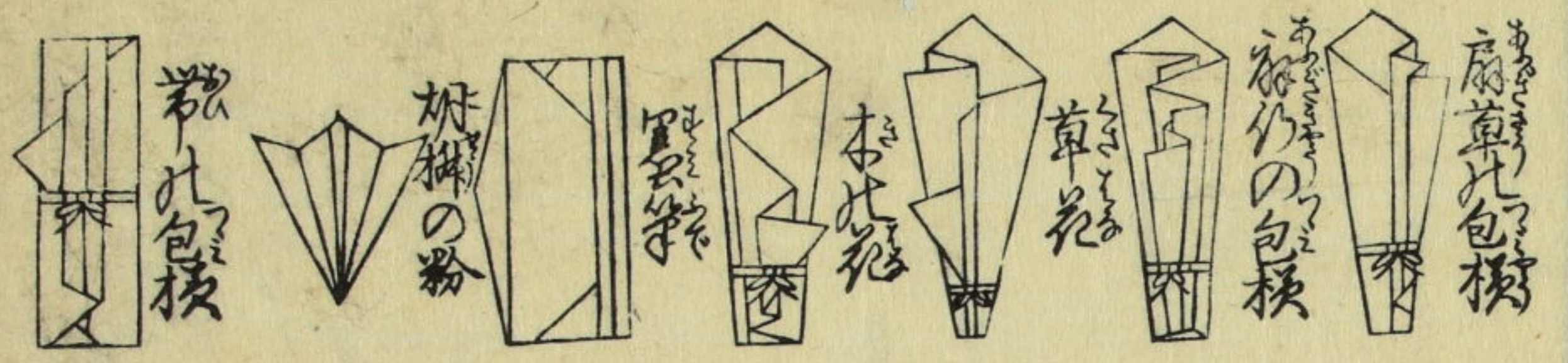
物掛
懐子懐か三梅對か
中より上下掛へ九の
おはれ行なふの物と掛
るておめは油と掛
さるておめは油と掛



風立
あはれみの言へ事する物法
そなたの事人のたむ事
まはれひの事うたむか
おの目にあはれ物の世

たふの言へ事する物法
そなたの事人のたむ事
まはれひの事うたむか
おの目にあはれ物の世
あはれみの言へ事する物法
そなたの事人のたむ事
まはれひの事うたむか
おの目にあはれ物の世
あはれみの言へ事する物法
そなたの事人のたむ事
まはれひの事うたむか
おの目にあはれ物の世

あはれみの言へ事する物法
そなたの事人のたむ事
まはれひの事うたむか
おの目にあはれ物の世
あはれみの言へ事する物法
そなたの事人のたむ事
まはれひの事うたむか
おの目にあはれ物の世
あはれみの言へ事する物法
そなたの事人のたむ事
まはれひの事うたむか
おの目にあはれ物の世

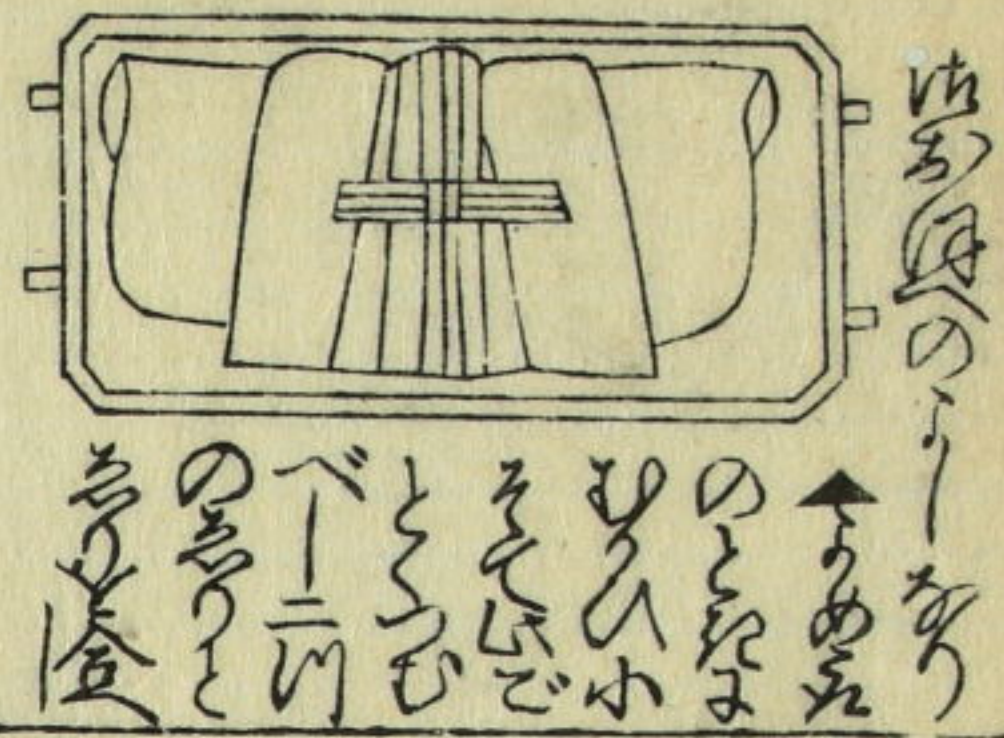


紙の包紙

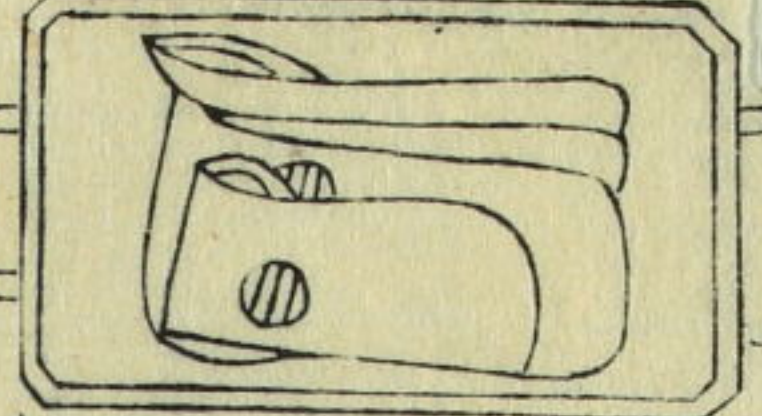
懐義經公あきつね公あきつね上かみ之の越こ者もの私し
 撰せん御ご代だい官くわん其その方かた為な勅しやく宣せん之の使し
 似に朝あさ欽きん於お思し代だいらら矣や在あ雲ぐも
 今いま秘ひ昔せき私し辱じやく之の心こころ乃すなは忠ちゆう貴き矣や思し
 介けい依い房ぶどう終しゆう之の既い出し莫な矣や之の
 勅しやく切せつ義ぎ沖ちゆう世せ祀い之の也や也や各かく其その時とき

○腰越状

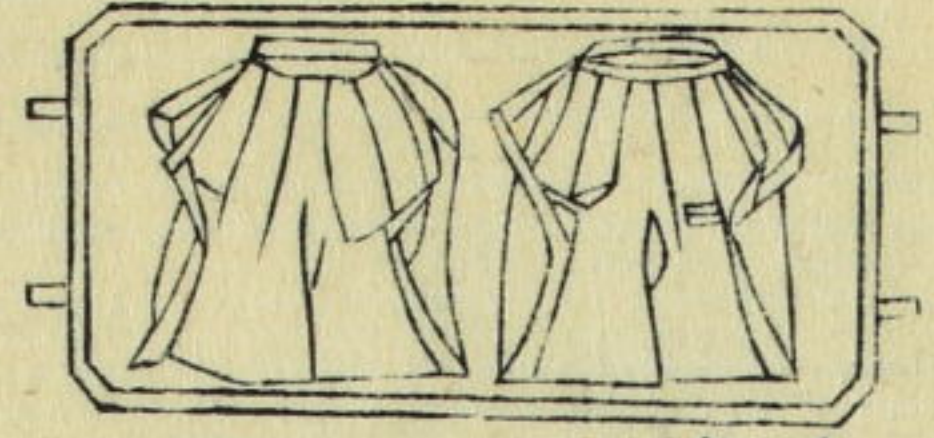
有あ女に智ち者もの獲と能よ成る之の圖ず上じやう
 有あ末すえ代だい之の名な人ひと也や也や無な能よ成る之の越こ
 有あ之の人ひと也や也や情じやう諸しよ乃すなは獲と能よ
 者もの也や仍なほ友とも割わり事こと如ごと件けん



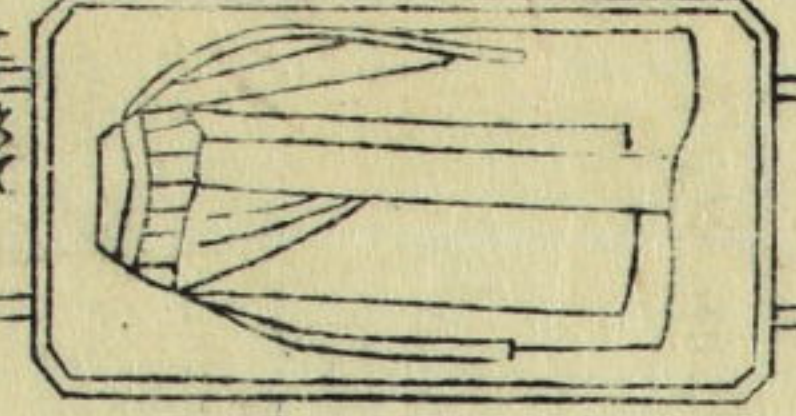
此の如きの下着
↑の如き
のこま
ひのこ
そい
とこ
ベ
の
き



↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着



↑の如き
↑の如き
↑の如き
↑の如き
↑の如き
↑の如き
↑の如き
↑の如き
↑の如き
↑の如き



↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着
↑の如きの下着

貴人同族抱母懐中茶
國字多助新の牧身月片樹
宿安徳も思當斐流及京
和鐘廻那治の同徳使令流の
在る隠身袖も去遠空服
は民百姓抱の素考忽純

熟るる力並舞河半家之族令
上深子合先誅戮本考友
仲法為貴使平氏或河藏
嚴志兼後る為敵不顧七
金或耐を海之人海後風波難
不痛沈身右海左掛散於線

二十四節月の異名
七十二作の節

初月 東風初吹

二月 蟄虫初解

三月 園蝶初舞

四月 蟪蛄初見

五月 鶯聲初聞

六月 草木萌秀

七月 鵙始鳴

八月 鷹祭始開

九月 雀始鳴

十月 蟋蟀始鳴

十一月 雉始鳴

十二月 鶡鴒始鳴



春分 中

春分 中
春分 中
春分 中

加世世

加世世

向美云云思後世猶格於密
秘法也人宜存禪床信探
令胎肉初與蕊有自不之是也
必切我身母猶也也
犯禁戒人復又常道欲
現當世世懷也先世世者

依那道の人初果者現
松竹征夷人將軍末子生
曹司賢仁美相者君也
初家系格也七世約也
物風雲鳳形武知生馬
家記揚負思既平邊及入

十の 葉叢始集
 十の 彼塚中日
 十の 日光苑
 十の 雷光初顯
 清明 三月 養生
 初日 桐毛甫冠
 十の 氣化液瑞
 十の 万虫始生
 穀雨 中
 十の 蛇胆始生
 十の 早麦熟
 十の 卯也見甲
 十の 不戴葉葉
 十の 作る童子
 十の 不銀葉露

洛イ栲毛垣表及及天
 美合浮記浦浪邦龍所龍
 於古拙者皆食及之虎机
 法眼限於於及之羅及園及
 十及字端蛇芥式終及逃伏及
 吾居二世突約平堤命及来

十の 夏 四月 麦秋
 十の 蚯蚓始活
 十の 瓜種始活
 十の 郭公一發
 小滿 中
 十の 槐子初生
 十の 蜻蛉初生
 十の 霧雨降出
 芒種 五月 中夏
 十の 蟪蛄初生
 十の 温風穿肉
 十の 蒼蒼啼止
 夏至 中
 十の 廉角落

奉師傍仍号副將軍臨終究
 仙雲西二十之國大將及護死
 一月行時及在不知及之及之及之
 万民皆憤初為追討平家
 率物万軍共所之城郭及及
 及刻非屑其又供奉及及

十のり 桐葉始落
 十のり 梢葉多也
 十のり 雲葉微啼
 十のり 八月 雨居
 十のり 神の 始居初来
 十のり 杜鵑啼止
 十のり 秋分 中
 十のり 虫光初發
 十のり 虫聲終止
 十のり 蛇胆沉地
 十のり 白露 空湯
 十のり 初の 白露 團圓
 十のり 葉心初死
 十のり 菴入大湯
 十のり 化成蟬 蛻



十のり 霜初降
 十のり 秋風深也

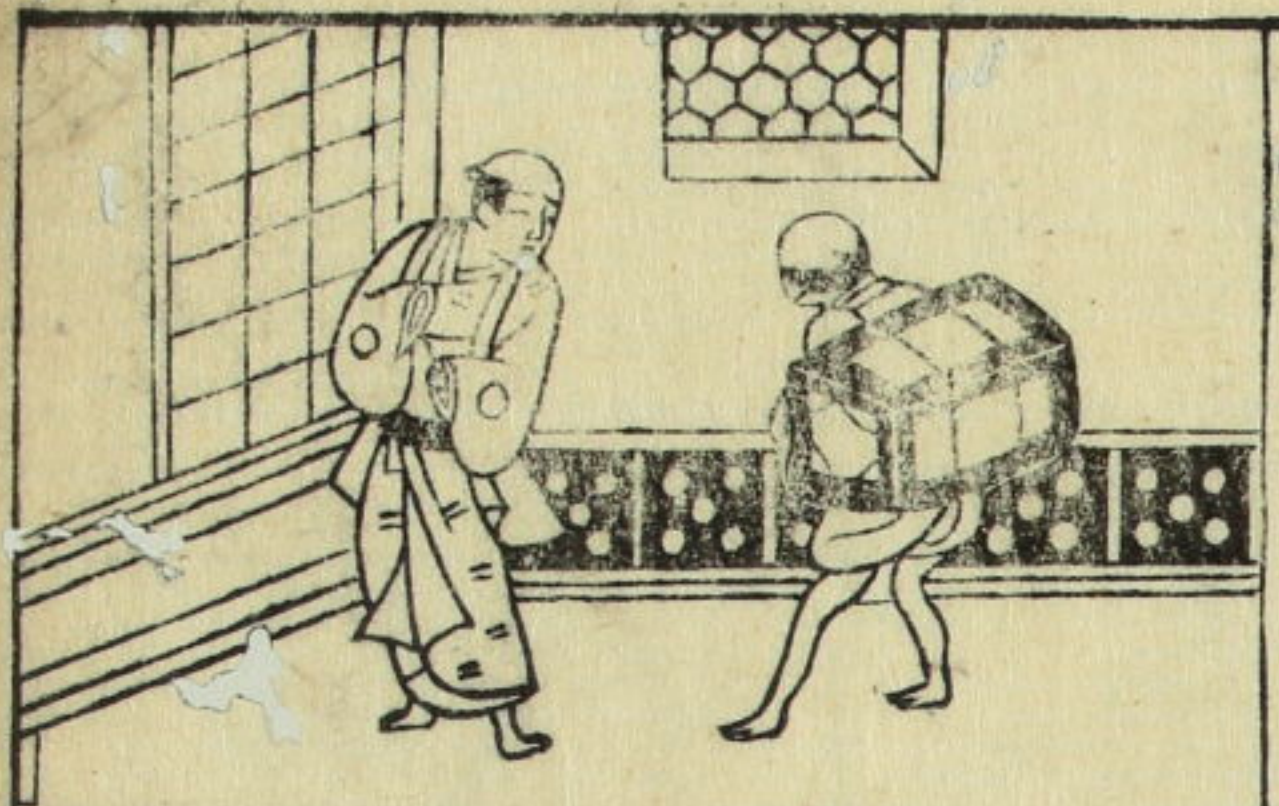
中

来更告教死跡をの世
 者之正之削骨事同范聚此
 余之流浪因茲於都又條沖
 小踏淡谷云作入乃竊之時者
 公三分之來梅削八角半
 一之成海流を後我君下籠

有野藏塔端破埤矣坐率初
 虎於者然就中用东下回
 刻改爲文武二道名爲一身
 秘重阿之臞身韜名隱於
 天多陽隨地厚不意踏漸
 忠通多折首ら奇は安富

何月何日
何人何處
何事何物
何處何處

○何人何處
○何事何物
○何處何處
○何人何處
○何事何物
○何處何處



○何人何處
○何事何物
○何處何處
○何人何處
○何事何物
○何處何處

奉_レ以_レ善_レ持_レ吊_レ由_レ頻_レ於_レ信_レ中_レ同
○何人何處
○何事何物
○何處何處
○何人何處
○何事何物
○何處何處

則_レ亦_レ采_レ居_レ比_レ宜_レ奉_レ吊_レ以_レ善
○何人何處
○何事何物
○何處何處
○何人何處
○何事何物
○何處何處

一は者も... 元正... 人... 定... 立... 右... 六... 何...

其元... 後日... 仍... 信人... 合... 右...

○ 經盛返状

今日七日於... 教... 本... 又... 又...

生者必... 定常... 世... 羅... 化... 然者...

何拾遺 遺後
中本定之別代
令と抄信 信元
中山自始 信乃
具付信乃 信乃
抄本入本 信乃
ゆら丸出 信乃
るひはを 我本 信乃
方と茂 孫出 信乃
度増信乃 信乃
少もは 孫信乃
乃あひは 信乃
賣と信乃 文乃
如件

何切かる知別公
表裏信前代出
厚園秀乃乾
孤今又て討果
一國一城
集一可為面目若園白叶天

後多
自号月日
雅人
雅判
雅版
てこし
手形
るる
へう
中
貼
ハ
より

道心理
者东维
也程初
廣長十九
申正月吉日

書
林

